

## 例会記録

日本医史学会・日本歯科医史学会・日本薬史学会・  
日本獣医史学会・日本看護歴史学会合同 12 月例会

平成 22 年 12 月 11 日（土）

順天堂大学医学部 9 号館 2 階 8 番教室

## 1. 日本独自の本草学の誕生について

W・ミヒェル

## 2. 歯科医史教育カリキュラムプランニングの試み

石井拓男

## 3. 大阪・道修町の製薬産業史の一端

——イノベーション・セレンディピティの

視点から——

松本和男

## 4. 牛海綿状脳症（BSE）発生の経緯と対策

小野寺節

## 5. 看護歴史研究におけるプランゲ文庫の意義

大石杉乃

日本医史学会 1 月例会 平成 23 年 1 月 22 日（土）

順天堂大学医学部 8 号館 1 階 3 番教室

## 1. 戦争のなかの精神障害者

岡田靖雄

## 2. イギリスにおける一般医（GP）と病院の距離

——技術システムとしてみた NHS の 60 年——

上林茂暢

## 例会抄録

## ライデンのシーボルト旧蔵の鍼灸関係資料について

ヴィグル・マティアス

## はじめに

今年 8 月、二松学舎大学の准教授町泉寿郎と一緒に、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルトが日本から持って帰った鍼灸関係資料の調査を目的として、ライデン大学図書館および国立民族博物館において研究調査を行った。ライデン大学の図書館に所蔵されているシーボルトコレクションの東洋医学関係資料の中で、鍼灸関係の文献、特に石坂宗哲とシーボルトとの豊かな交流を表す石坂宗哲の文献は多く、特別な位置を持っている。

従来のシーボルト研究において石坂宗哲とシーボルトの交流、石坂宗哲の鍼灸関係資料に関する研究などがなかったわけではない。周知の通り、呉秀三の『シーボルト先生其生涯及功業』（1926）、『施福多先生文献聚影』（1936）の第 7 冊を含む「灸法略説」の大鳥蘭三郎の解説、日独文化協会の『シーボルト研究』（1979）などの先行研究がある。

しかし、これらの先行研究の問題点はライデン大学とベルリン日本学会に所蔵されている資料を参照してなく、石坂宗哲がシーボルトに伝わった資料、シーボルトの門人によって書かれた論文、シーボルトが書いた論文の比較対照調査も十分行われていない点にあると考え、この不十分点を明らかにするため、今回の調査を行った。

## ライデン所在のシーボルト旧蔵の鍼灸関係文献

シーボルトは帰途のバタヴィアで雇ってオランダへ連れてきた中国人の郭成章と、言語学者であるヨーゼフ・ホフマン助手の協力を得えながら、もとの出島商館長ヨハン・コック・ブロムホフと、同副館長ファン・オーフ・フェルメール・フィッシャーの収集文献を加え、1845 年に日本から持って帰った日本図書の目録を編集した。603 タイトルを含むこの目録を部門別すると、医学書

は14点があるが、すべてシーボルトコレクションの文献である。また、この14点の中で、7点は鍼灸に関する文献で、ライデン大学蔵書を検索し実地調査を行ったところ、ライデン大学図書館に所蔵されるシーボルトコレクションの鍼灸文献としては、次の6点が確認できた。

- ・ 刊本『針灸拔萃大成』(UB1099)
- ・ 刊本『針灸広狭神俱集』(UB1101)
- ・ 刊本『針灸説約』(UB1100)
- ・ 刊本『栄衛中経図』(UB1132)
- ・ 写本『知要一言』(UB1092)
- ・ 写本『九針略説』(UB1103)

また、シーボルトの日本と書目録に載せている「496. Sinkiu dsu kai」(『針灸図解』)はライデンの国立民族博物館に所蔵されていることも確認ができた。この文献は二枚の経絡図であるが、現在一枚はライデンのシーボルトハウスに展示されている。

調査対象以外であるが、ライデン所在の外に、シーボルト旧蔵の鍼灸関係資料についてはドイツ所在の二つの文献を紹介する必要がある。一つはオランダ語で書いてある『灸法略説』である。原資料はポッフムのルール大学に所蔵されるが、1934年にベルリン日本学会のシーボルトコレクションの300余点が日本に将来した時に、『灸法略説』は撮影されて写真資料として国立公文館に現存している(請求番号:159-0203)。この文献の構造についてはすでに『施福多先生文献聚影』の第7冊の解説で大鳥蘭三郎が述べたように、次の4部から成っている。

- ・ 戸塚亮斎訳「灸法及び烙針法に関する簡単な

記載」

- ・ 戸塚亮斎訳「小児の痘瘡及び麻疹の原因に就て」
- ・ 美馬順三訳「日本人の鍼術に就て」
- ・ 石井宗謙訳「支那人の鍼術に就て」

もう一つの資料はベルリン日本学会に所蔵されるが、『灸法略説』と同じように写真資料として東洋文庫にも現存されている(請求番号: XVII I-B 6)。一枚目には題名として「鍼術について少数の解説」と、二枚目の終わりには「石井宗謙によって書かれたもの」と書いてあるが、作成年代などについて何も分からない。

ライデンのシーボルト旧蔵の鍼灸関係文献を、ポッフム大学の『灸法略説』、刊本の『知要一言』と石坂氏所蔵の『手沢之内』と比較すると、文章の構造、用語の相違があっても、内容は同じだと分かる。また、これらの資料の中で、刊本の『知要一言』は一番訂正されたものであり、ポッフム大学の『灸法略説』の内容は簡略化されたことも分かる。従来の先行研究にはポッフム大学の『灸法略説』が『知要一言』から翻訳されていると説明されているが、ライデン大学の『知要一言』には「灸法」について何も載せていないので、先行研究が「灸法」を含む刊本の『知要一言』しか参照しなかったと分かる。実際、ライデンの資料を見ると、『灸法略説』は『知要一言』だけでなく、『九針略説』にも基づき作成されたと考えられる。なぜなら、ポッフム大学の『灸法略説』の「灸法及び烙針法に関する簡単な記載」は『九針略説』の第3編である「灸法略説」を簡略化された同じ内容だからである。

(平成22年11月例会)